

## 令和元年度 卒業・修了に向けた学長の「はなむけの言葉」

2020.3.16 学長 高橋 秀裕

学部と大学院の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。

各学科コースや大学院研究科の所定の課程を修められ、本日、めでたくご卒業・修了の日を迎えられた皆さんに、心からお慶びを申し上げます。そして、これまで長年にわたって成長を見守り支えてこられたご家族の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

しかしながら、この度、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、本日の学位授与式を全面中止とし、ご指導いただいた先生方から学位記を直接お渡しすることができませんでしたことは、皆さんの気持ちを考えますと誠に残念でなりません。

大正大学で学び、その成果として学士号、修士号、あるいは博士号を取得され、新たな門出を迎えられた皆さんにとって、学位授与式は、かけがえのない人生の節目の行事ですから、私たち教職員は何としても挙行したいと思い、政府発表等の情報を踏まえながら、何度も協議を重ねました。しかし、現状可能な限りの対策をとった場合でも、卒業生の皆さんの不安や心配を払拭することが困難であり、関係する皆様の健康面・安全面を考慮するとともに、感染拡大のリスクを低減するという社会的責任を果たすべきであるとの判断から、断腸の思いで学位授与式の中止という決断をいたしました。ここに、大正大学の教職員を代表して、心からお詫びを申し上げます。また夏以降に卒業生・修了生向けのイベントを検討してまいりたいと考えておりますので、どうかご理解のほどよろしくお願いいたします。

さて、このような状況ではございますが、今年もまた変わらず、木々の芽もふくらみ始め、春の訪れが感じられるよい季節となりました。ご卒業・修了される皆さんに、未来に向っての激励と応援をこめて、本来式辞として申し述べようとしていたことを、これから「はなむけの言葉」としてお贈ります。

今、皆さんの胸の中には、楽しかったこと、嬉しかったこと、苦しかったこと、あるいは辛かったことなど、大正大学で過ごした学生生活の思い出が走馬燈のようによみがえっていることと思います。今日の日を迎えることができたのは、皆さん自身の努力はもちろんですが、ご家族の方々をはじめ、熱心に指導してくれた先生方、

あるいは友人たちの励ましがあったからでもあります。どうか感謝の気持ちを忘れないでください。そのことも含めて全てが皆さん自身の将来への財産となるものと確信しています。

皆さんが社会に出て活躍するこれからの20年、30年はどんな時代になっていくのでしょうか。日本政府は「超スマート社会」として新たに「Society5.0」を提唱し、サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会を実現させようとしています。当たり前のようにスマートフォンを持ち、いつでもどこでも情報を手にし、また、発信できる、こうした情報化社会はさらに進化していきます。自動運転技術の開発も進み、AIが囲碁や将棋でプロ棋士に勝利するという状況も起きる中で、人が人としてどのようにあるべきかを改めて考えなければならなくなるでしょう。こうした社会環境の中では、自らが多面的な視点を持ち、自分の頭で考えるということが益々大切になってくるはずです。

そのための皆さんの行動指針として忘れてならないのが、大正大学の建学の理念「智慧と慈悲の実践」です。これは、人が人として生きるべき理想を表現した言葉です。卒業する皆さんが自分の頭で考え、とくに困難に出会ったとき、この言葉を思い出してほしいのです。

「智慧と慈悲の実践」の「智慧」というのは、世間でいう単なる知識を意味する知恵のことではありません。困難に出会ったとき、その背後にある道理を見極め、問題の本質を見抜き、人生を切り拓いていく力のことであり、意義ある人生を生きるための力のことです。「慈悲」というのは、相手を思いやり、寄り添って苦しみや楽しさを共有するところです。慈悲は他者を「生かす」ための無私無欲の優しいところのことでもありますから、そのために智慧（生きる力）を養っていくことが大切なのです。

皆さんが社会に出ても、この智慧で人生を切り拓いていける人になってほしい。そして、慈悲のところで他者と協調しながら社会のために貢献できる人になってほしい。建学の理念には、このような願いが込められているわけです。

世の中は一人では生きていけないということは皆さんも経験から分かっていることと思います。ここには、あらゆるものは関係性の中であってはじめて存在し得ているから、自分だけで自分を支えているものではない、という仏教の縁起の思想がベースにあります。皆さんは大正大学という学びの場において、志を同じくした友人たちと共に学び、それぞれの目標に向かって切磋琢磨してきました。それらの活動の中から、仏教の精神が自然と身についていると思います。

いずれにしても、目標を達成するには強い願望が必要です。目の前の一步を誠実に大事に踏みしめて行ってください。そして道に迷ったときは、本学の建学の理念「智慧と慈悲の実践」を思い出してください。人々のお役に立てる喜びが自分の生きる力になるという気持ちが、自らの進むべき道を示してくれます。自分に誇りを持ち、自分を信じ、社会貢献ができる人材としてどうかご活躍ください。

教職員全員は、皆さんが元気に卒業され、4月からの希望に満ちた新しい一步を無事に踏みだされることを心から望んでおります。頑張ってください。

令和2年3月16日

大正大学学長  
高橋秀裕